



多様化の時代、私たらはこう生きる!

「多様化の社会を生きる」という言葉を頻繁に耳にするようになった昨今。学校現場も過去の価値観にとらわれずに柔軟な発想で他者と協働することが求められる時代になりました。今日は、人権感覚を基盤にしながら社会の変化にどう対応して生きていくのか、講師や生徒、学校関係者5名の皆さんにキーワードを教えてください。



パッチェリービー 益村千代さん



2年生 青砥こみちさん



ホテメイクスタジオ/スクリット 前谷涼子さん



3年生 笹谷 薫さん



↓理科で答へ!



ミオカブリッククリニック 葉山美紀子さん

ガオー!!

節分の(苦い)思い出



節分になると思い出すエピソードがあります。中学3年生の担任をしていた20代の頃。受検で毎日頑張っているクラスの生徒を笑顔にさせようと、朝学活のときに鬼のお面をかぶって登場するサプライズを思いつきました。画用紙にマジックで手書きした鬼の顔は、少し情けない顔になりましたが、準備は万端。

節分当日に予定通り、朝読書や朝学習をしている朝8時20分に勢いよくドアを開け「ガオー!」と言った瞬間、短い沈黙が続くと、一番前に座っていたサッカー部のNさんが真顔でこう言いました。

「先生!・・・みんなが受検で大変な時期に、何一人でふざけてんですか・・・?」

一晩考えて作ったお面をそっと外し、その後は何もなかったように朝読書をしたフナコ氏でした。(恥(-;-))

生徒の名言

■やっぱりカッコいい大人って、自分の目標に向かってがんばってる人だへん。そうそう、目標にたくなるんだよなあ。..俺は、なんでも知ってる器のでかい大人になりたいな。(2年生の会話より)

Good Comment

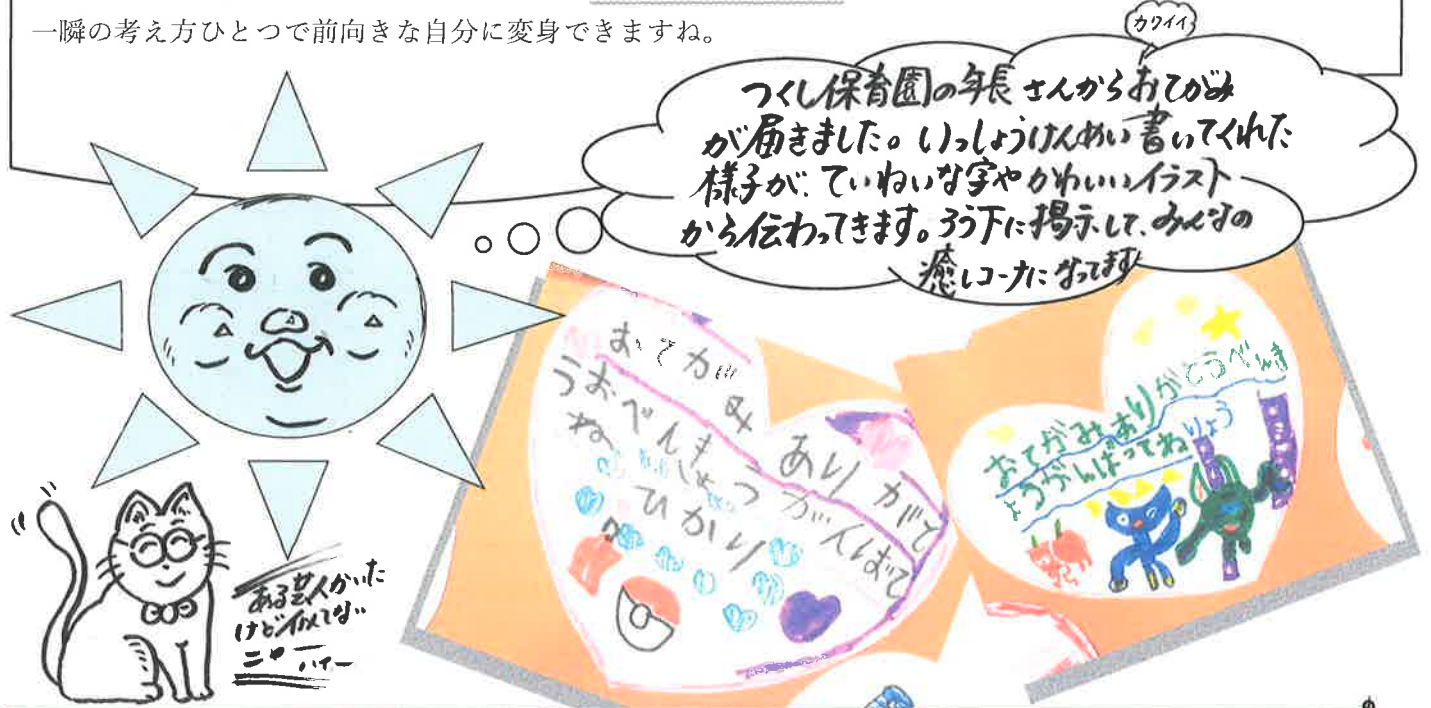
一瞬のうちにすべてが不可能になるのなら 一瞬のうちにすべてが可能にもなるだろう

↑表題は、詩人、随筆家、作詞家、写真家である銀色 夏生（ぎんいろ なつを）さんの詩です。懐かしい歌手ではありますが、かつては、沢田研二や大沢誉志幸、太田裕美などに歌詞を提供している方もあります。（中学生は知らんかなあ?）

さて、この時期の3年生は、進路が内定した生徒、結果をどきどきしながら待っている生徒、受検を直前に控え猛勉強している生徒・・・個々に様々な事情を抱えながら日々の授業を頑張っています。

私は、各高校受検の前日指導の際に、必ずする話があります。「緊張は当たり前。当日朝、緊張している自分にこう語ってください。『ああ緊張してる自分は、正常なんだあ!!・・・大丈夫!』と。」

不安をなくそうと思っても、不安は消えることはありません。むしろ正直な自分の気持ちなので、「不安な自分はダメな自分」と思いこまずに、「それがふつうだ。」と思えば、力がぬけてリラックスできるはず。銀色夏生さんのこの詩は、そんなものの見方・考え方のことを言っているのかもしれない。一瞬の考え方ひとつで前向きな自分に変身できますね。



その100円で買ったもの

何年か前に話題になった話です。

ある日曜日の午後、スーパーマーケットでレジ待ちの列に並んでいた小学1年生くらいの子がいました。おやつに食べるのでしょうか、手には100円とチョコレートが握られています。数分並んで、ようやく自分の順番がやってきました。すると、その子は店内にあった「あるもの」をじっと見つめると、せっかく並んだ列を離れチョコレートを棚にもどし、店から出ていきました。

その姿を見た店員は、深々とその子に頭を下げて「ありがとうございます。またおこしく下さい。」と丁寧に礼を言われたそうです・・・さて、何があったと思いますか。

実はその子がレジ付近で見たものは、被災地への「募金(義援金)箱」だったのです。その箱にはこう書いてありました。「あなたのこころをいれてください。」その子はチョコレートをかうための大切な100円玉を募金箱に入れ、うれしそうに出ていったそうです。

今、「自分ができること」はチョコを我慢して「心を被災地に届けること」と、咄嗟に考えて行動したのでしょう・・・一人の人間としていつも考えさせられるエピソードでした。

